

4月23日 意見交換会 グループAまとめ

■ 第一回セッション「鎌倉市の市民活動をどのようにしていきたいか？」

【スタートライン】

- ・スタートラインは自主的問題意識。市に言われてやるものではない。
- ・NPO 活動をしていると社会貢献の一部だと自覚できる。NPO 活動は市民の活動なのだから市にも関わって欲しい。資金面でも…。
- ・そもそも、鎌倉は普遍的な目標が見えない。価値創造の必要性がある。

【発信・広報の重要性】

- ・NPO の発表会は活気がなさすぎる。生き生きしていない。
- ・どういう発信をしたらよいか見やすくする必要がある。
- ・活動の発表をする場がない。鎌倉と言えば住みたい場所なはずなのに…。
- ・広報活動をどんどんやらないといけない。
- ・外へ出す遠心力が必要。
- ・メディアのフル活用！彼らを活用すること。
- ・広報が弱い。市が PR する力は大きいはず。仲間を繋げるアドバイス等も必要。

【つながりの重要性】

- ・「コラボレーション」と「合流」をキーワードに1つだけではなく関連する団体と一緒に。
- ・市民活動の横のつながりが大切。
- ・生き生き活動できるように団体同士や市ともできればいい。
- ・自治会とは別の市民グループ等、下から持ち上がる活動は長続きする。協力し合える「まちづくり協議会」等。

【コーディネーションの重要性】

- ・横の連携が必要。NPO にもコーディネーターが必要。
- ・NPO センターがコーディネート機能を担っていけるといい。

【民間の力も必要】

- ・寺等の民間が場を提供し、協力してくれるようなパターンも。
- ・活動資金や情報発表の場等は、民間の力を借りてはどうか。

【市と市民の関係性】

- ・市と市民がいつも対立しているように見えてしまう。
- ・昔と比べると市は忙しそう。バラバラな印象。市が応援してくれているようには見えない。
- ・鎌倉は地域性でまとまる。自分たちの為か、市民の為か。

- ・市には一切頼らない活動もあった。ものにもよるかもしれない。

【若手職員に関して】

- ・市職員も若い人が多い。市民がリードしていったらどうか。
- ・市の若手職員と話していたら、「こんな活動知らなかった」と言われる…。

■ 第二回セッション「市民活動を良くしていくために必要なことは何か？」

【条例の件を知っていたか】

- ・TVで批判されているのを聞いて、初めて条例のことを知った。
- ・条例を変えたところで、私達の生活に変化はあるのか。
- ・市民も参加した百人会議の後、自治基本条例は却下されている。
- ・条例案の内容・アンケート内容を踏まえた上で議論した方が良かったと思う。

【市民性】

- ・市民にはうるさい人も多く、決まることも決まらない。
- ・有能な市民も出にくい…？
- ・戦略家的市民はいないのか？プロはいない！

【若い人に関して】

- ・若返りが重要。活動が途絶えてしまう。
- ・研修で若い人に外に出てもらおうとよい体験になっている。
- ・市職員が外を知る機会。
- ・年をとると悪いことばかり気になってくる。若い人の方がやる気がある。

↓

人材育成が大事！

【議会の声】

- ・議会は条文の方しか見ていない。
- ・議会と行政との信頼関係の問題。
- ・議員も協力的に、市民の為に動いて欲しいもの。

↓

信頼関係はどう築けばよいだろうか。

【市に対する印象】

- ・市職員が市民にビビり過ぎではないか。
- ・協働事業もトップダウンに見える。
- ・市のお仕着せに見えてしまう…市が上に立っているかのよう。
- ・県から見ると、鎌倉市は優秀な人が多くプライドが高い感じ。評判が悪い。
- ・市民活動を見ると市が上にある感じがする。

↓

本音のコミュニケーションを！

■第三回セッション「まちをよくしていくために、自分たちにできること、市民、団体、市などに期待すること」

【望むこと】

- ・「市民活動推進条例」より「ボランティア条例」の方がよいのでは。
- ・「1人でも多くボランティアをやろう！」「市も応援するよ！」の2つの意味があるといい。
- ・ちょっとやってみたい人も協力できるハードルの低いものに…。
- ・持ち出しをして赤字になり、大変にならないように、市に支援して欲しい。
- ・NPO法に準じたもののはず…。手当も払ってもよいはず。
- ・行政の中で市民のアイデアや動きを助ける条例は大切。

【議会の姿勢】

- ・議会を聞いて、数人の意向で決まっているような気もした。報酬を少なくして議会に参加できる人数を多く。
- ・欧州では議員無報酬のケースもある。
- ・根本的な姿勢が重要。

【市の取組み方】

- ・市の建物なのに放置はおかしい。
- ・いろいろな放置例が多い。無計画的では？

【市民の声は聞いているのか】

- ・パブコメはアリバイか？100件来たと言うが、市民からなのか。
- ・パブコメは伝わっているのだろうか。パブコメ後に意見交換の場があればよいが。
- ・パブコメはもう少し早い段階で聞けばいいのではないか。

【市政の難しさ】

- ・対応できない物事が現実化。意見を取り入れる対応。→その為の条例。
- ・ダイバーシティ。要求が多様化。市役所では対応できない。市民活動が支える。

- ・不健全
- ・働きにくい市役所をなんとかしてあげないと。

【結論】

- ・行政と議会と市民並びに市民グループを対等にする。対等に支える条例にして欲しい。

【感想】

- ・条例の名前を「市民活動いきいき推進条例」としたらどうか。
なお、「いきいき」の表現については、さわやか・すこやか・にこにこ等のいずれかでもよろしいと思う。

4月23日 意見交換会 グループBまとめ

■ 第一回セッション「鎌倉市の市民活動をどのようにしていきたいか？」

- ・ずっと続く活動が大切。

【世代・分野を超えたつながり】

- ・メインは50代～80代。協力できる同世代がいなかった。
- ・子育てで忙しい世代もある。
- ・活動できる世代や協力者がいなかった為にリタイアする人も多い。
- ・年齢的、分野的なつながりが必要。
- ・同じ目的の団体が結集する力が欲しい。

【若い人の力】

- ・活動を続けるには、若い人の活動が必要。
- ・藤沢市では学生の支援をしている。
- ・若い人がいろんなアイデアを活かす活動もある。
- ・遊びながら取組む等、市民活動の入口の敷居を低くする！（ex.防災トランプ）
- ・地元で友達ができた。

【資金の問題】

- ・活動の継続には資金の問題もある。
- ・資金を自腹で賄う問題。
- ・目的が達成されると終わる活動もある。

【共感】

- ・なんであんなに熱心にやっているのかと思われる。
- ・NPOではイベントから共感者を獲得している。
- ・共感による協力関係の拡がりが必要。

【市に関して】

- ・行政の立ち位置。
- ・市民の打合せした内容が反映されない。
- ・cf.横浜フリースクール協議会←折衝→行政
- ・市からも資金サポートが必要。

【NPOに関して】

- ・鎌倉のNPOのことが知りたい。

- ・鎌倉の NPO はステータスがある
- ・閉鎖的で変化しづらいというイメージ。

■ 第二回セッション「市民活動を良くしていくために必要なことは何か？」

【活動場所】

- ・会議室や施設が欲しい。綺麗で広い所。
- ・民間シェアオフィスなど数は増えてきている。

【市民活動】

- 〈市民〉市民活動をする、良くする→自分で動く→後継者を育てていく
- 〈市役所〉市民活動を支援する→パートナー（市民と良いところを支え合う）
- 〈NPO〉中間支援組織。地域に根付いている。

【協働】

- ・やり方は多様。
- ・方法等、情報へ接し易くして欲しい。
- ・市＝資金とハード、NPO＝ソフト
- ・4年間パートナーを組み、良い関係ができていた。

【ネットワーク】

- ・自分たちで繋がる機会が欲しい。
- ・NPO で登録団体向けの懇談会が開かれている。
- ・全国の同じような活動団体に見学に行つてつながる。
- ・枠の中にはまらない。
- ・人と人との直接のふれ合いが重要。

【結論】

- ★誰が良くするのか？＝市民！
- ★市役所をお願いするのは支援
- ★公園＝市民のための

■ 第三回セッション「まちをよくしていくために、自分たちにできること、市民、団体、市などに期待すること」

【条例に関して】

- ・条例を実現して欲しい。

- ・反対意見に対する対策：意見を聞く、議員さんの声をあげていく、行政の方が間に入ってまとめる努力が必要、前の条例案は曖昧、委員会を設置するだけの内容かどうか。

【必要なこと・現状】

- ・全体像を見る人が必要。更に、①自分たちができること②自分たちや企業が行政とやること③行政がやることの3つを整理しておく必要がある。
- ・人脈図（マップ）→テーマ型と地縁型→防災など共通のテーマがあると良い。
- ・産業の有無等によっても地域性が出る。まちを知る事が大事！
- ・若い人→祭や町内会には関わりにくい人も、「子育て」というテーマでつながり易い。
- ・お祭りですつながる→お神輿が接点となる。地元の方々と団体がつながる。
- ・腰越の地図を作った→転入者などに配布。
- ・自治会や町内会は高齢化している→機能していない。
- ・選択肢が欲しい。
- ・勝手に動いていると見られている！？

【行政に期待すること】

- ・企業との連携→行政が間に入ってくれないだろうか。
- ・庁内の連携。
- ・情報が欲しい。

【感想】

- ・多角的な意見を聞くことができた。条例作りについて他の人にも伝えていかなくてはと思った。参加しないと分からないことが沢山ある。
- ・行政と市民が一体化できるように絶えず気配りと方策を立ててほしい。
- ・皆さんと意見交換が出来て、初めてであったが皆さんの考えが分り良かった。あまり力にはなれないが、活動が続ける中で会員にも伝えたい。
- ・人数が少ないのであれば、無理やりワールド・カフェをやらなくても…。進行が忙しすぎた。
- ・いつも同じメンバーではなく、今日のようなタウンミーティングを何度も重ねた方が、より良い条例ができるような気がする。
- ・行政を意識して活動している方と逆に市民だけで、という方の双方のお話を伺えたのは面白かった。上手くその接点が見つけられると良いのではと感じた。

4月23日 意見交換会 グループCまとめ

■ 第一回セッション「鎌倉市の市民活動をどのようにしていきたいか？」

【条例に望むこと】

- ・ 対等性を保障する。
- ・ 鎌倉のまちづくり活動だけが対象のような気がする。地域限定？
- ・ きちんと活動を評価してもらえなかった→協働の仕組みをしっかりと。

【市民活動への不満・望むこと】

- ・ 資金が足りない→自分で稼げる、自由に運営。
- ・ 支援してくれる人が居なかった。
- ・ 広報面でのサポートが必要。
- ・ 世代交代。人材の補充。
- ・ 小中学校でも NPO のことやできる活動を学べる機会を持つ。

【NPO センターに関して】

- ・ NPO センターの支援の中身が分からない。
- ・ NPO センターの支援→①NPO の法人化②会計の口座③助成金（たった5万）
- ・ NPO センターの施設が古くて狭い。

【市に関して】

- ・ 鎌倉市の他所にはない良いところ→①広報かまくらで市民活動の PR ができる。②鎌倉萌③行政センター（支所）で会議が無償でできる。

■ 第二回セッション「市民活動を良くしていくために必要なことは何か？」

【市への不満・望むこと】

- ・ 行政には限界あり。
- ・ 市民活動の立ち位置をきちんと保障して欲しい。（勝手にやっている訳ではない。）
- ・ 行政は市民活動を支援するというスタンスを明記して欲しい。
- ・ 行政と一緒に取組んで活動を展開していきたい。
- ・ ネットワークを作って市に提示していきたい。
- ・ 縦割り行政→たらい回しにされる。
- ・ 庁内の1本化をして欲しい。
- ・ 庁内のつながり課が必要では？
- ・ 行政の担当が変わりすぎる。
- ・ 広報のバックアップ。

- ・広報で知らしめる努力が必要。
- ・市に市民の意見を聞く会を頻繁に開いて欲しい→タウンミーティング
- ・市民の意見を行政が活かしているか。関連する課も集めて取り組んで欲しい。
- ・意見を聞いて協働事業を進める。
- ・NPO 同士の情報支援の場が欲しい。

【その他】

- ・自治基本条例のプロセス。
- ・手弁当では限界あり。
- ・ボランティア無料奉仕。
- ・子育て、つながりが上手くいっていない。
- ・参加すること。

■第三回セッション「まちをよくしていくために、自分たちにできること、市民、団体、市などに期待すること」

【鎌倉市の現状と対策】

- ・鎌倉の豊かな自然の強み。
- ・鎌倉は人材の宝庫なのに、地域活動には入らない。
- ・対話が大事
- ・あいさつ、声をかけあう。
- ・自然の中の挨拶→コミュニケーション、信頼関係。
- ・地域の活動を伝える。
- ・助けあいのできる地域社会。
- ・催しに参加する→（防災など）貢献する。
- ・現役世代をどう引っ張り込むか。
- ・共働きが増えると、地域活動が手薄になる。
- ・「お金をかけずに豊かな生活」をアピールする。
- ・根回し足りなさすぎ。
- ・井戸端会議。
- ・あちこちに井戸端会議のできる場所あり→今泉・玉縄
- ・1日居られる場所→ヨーロッパのカフェ・中国の公園
- ・城宿（玉縄）の井戸端会議のできる場所（カフェ）
- ・団体同士のコミュニケーション。
- ・議員同士のコミュニケーション。

【感想】

- ・楽しかった。

- ネット（ホームページ）で見ただけの情報で参加したので、思っていたのと違いびっくり！
これからどうしていくのかの方向が見えなかった。少し勉強してみる。